

実務経験不要は半数がメリット大

配置業界紙（家庭薬新聞）が登録販売者試験の実務経験不要でアンケート調査

発行：日本置き薬協会 事務局

配置薬の業界紙「家庭薬新聞」は、登録販売者試験の実務経験不要化についてアンケートを実施し、21社から回答を得てその結果を同紙7月5日号に掲載した。以下その抜粋である。

事前の実務経験要件の廃止を「メリットが大きい」としたのは11社で半数以上となり、「デメリットが大きい」「分からない」各4社を上回った。中には「メリット、デメリットも大きい」「大勢に影響ない」も各1社あった。

「メリット」については「採用後、1年以上従事していないと受験できなかったタイムラグが解消される」が12社、「従事歴、学歴に関係なく誰でも受験でき、試験合格者が確保しやすくなる」が9社、「求職者の就職活動の一環として受験者の拡大が予想され、試験合格者が確保しやすくなる」が5社と多かった。一方で「新配置に移行しなくても、試験合格者が確保できる」が3社。

今後の試験対策は「従来どおり積極的に社員の受験を支援」が19社、「試験合格者の待遇を優遇」が6社、「試験合格者の採用に重点」が3社。「試験合格の有無は個人の資格取得と捉えるので、受験対策や受験費用は社員個々の負担に」も3社あった。

既存配置では管理者要件となる実務要件が認められないことに対しては「管理者を確保するため新配置に移行するのが当然」が約半数の10社、「試験合格者にすれば、実務経験が行えない既存配置に従事しても管理者になれないので不利に感じる」が5社だったが、「実務経験がなくても試験が受けられるのであれば、新配置に移行する、移行しないは関係ない」「今後も既存配置として業を継続するので試験制度見直しは関係ない」も各3社だった。中には「新規参入を妨げる規制強化」が4社あった。

前回ニュースリリースでは当会のパブリックコメント（薬事法施行規則などの一部を改正する省令案に関する）に、「登録販売者の従事期間中の資質向上研修は、専門性、客観性、公正性が確保される外部機関での実施が薬食総発第0326号は適正だとされており、それらの確保の点より、指導監督の徹底をされたい」とした。「後からでも」、「前からでも」良いとして、使用者への情報提供が形骸化されない、登録販売者の量から質への移行が全薬業界の責務である。

本件に関するお問合せ先 **日本置き薬協会 事務局**

〒114-0023 東京都北区滝野川3-56-9

TEL. 03-5974-6227 FAX. 03-3917-9081

日 置 協